

# 認定中心市街地活性化基本計画の最終フォローアップに関する報告

平成26年12月  
富良野市（北海道）

## 全体総括

計画期間;平成20年11月～平成26年10月(5年11月)

### 1. 計画期間終了後の市街地の状況(概況)

本市は、基本計画に基づき「都市の魅力と田園の魅力を併せ持つ、ちょっとおしゃれな田舎町/快適空間ルーバン・フラノ」を目指し、にぎわい創出による商業の活性化、まちなか居住の推進を数値目標に掲げ、中心市街地の活性化を継続的に取り組んできた。

この取り組みにより、第1弾事業として平成22年に完成・オープンした「フラノマルシェ」は、初年度555千人、翌年の平成23年度には668千人、直近の平成25年度においては795千人と、当初の目論見どおり「まちの玄関口、にぎわい滞留拠点」として十分な集客効果を発揮している。今年度は、現在のところ対前年比約7%増で推移しており、800千人の突破が大いに期待できる状況にある。「フラノマルシェ」が出来る以前は、市内全体の観光入込客1,800千人に対し、中心市街地への観光客の流入が100千人に満たない状況と低迷の一途をたどっていたが、施設開設後は800千人近い観光客がまちなかへと足を運んでいる状況から、富良野観光1,800千人を下支えしているものと推察出来る。

「フラノマルシェ」が当初予定していた効果を着実に発揮している中で、現在は「フラノマルシェ」に隣接する北側約1.7haにおいて「東4条街区地区市街地再開発事業」として新たな商業集積、居住空間及び福祉施設群の建設工事を進めており、「フラノマルシェ」という拠点から歩行者回遊を促し、多くの市民が集い歩いて用がたせる新たな市街地形成を目指し取り組んでいる。この事業は当初、本計画期間内で事業完了する予定であったが、各種事務手続きに時間を要し、結果的には計画期間内での事業完了が遅延する現況にある。しかしながら、今年度内での事業完了となることから、滞留拠点(フラノマルシェ)へと集まった人々をより中心市街地へと誘導し、既に交通結節点として機能している富良野駅前地区との回遊による周辺商店街への波及効果が一層促進されるものと期待している。

これら基本計画に基づく各種事業展開により、今年度の「フラノマルシェ」周辺の路線価が約3.4%上昇し、基本計画策定時では予想していなかった中心市街地の地価上昇は、大きな福次効果だったといえる。これら事業の実施主体であり、公益的ディベロッパーとして基本計画でその役割を確立した「ふらのまちづくり(株)」においても、地価という形で公共の福祉の増進に貢献し、中心市街地の活性化を推し進めることが、商業者の担保価値保全に側面的に寄与するものと確認され、今後、中心市街地活性化を進める上でも大きな自信と成り得たと感じているところである。

しかし、本基本計画で掲げた2つの数値目標が、いずれも数値未達という結果で計画期間を終了することとなったことは、初期の数値見通しの甘さに起因するものと推測するところではあるが、本年2月に実施した市民アンケートでは中心市街地が「賑わってきている」・「少し賑わって

きている」との回答が43%と、約半数の市民が実感覚としてまちの賑わいを感じているものと推測できることから、市民の認識も徐々に広がりつつある現状と判断しているところである。

## 2. 計画した事業は予定どおり進捗・完了したか。また、中心市街地の活性化は図られたか(個別指標毎ではなく中心市街地の状況を総合的に判断)

### 【進捗・完了状況】

概ね順調に進捗・完了した

順調に進捗したとはいえない

### 【活性化状況】

かなり活性化が図られた

若干の活性化が図られた

活性化に至らなかった(計画策定時と変化なし)

活性化に至らなかった(計画策定時より悪化)

### 【詳細を記載】

基本計画に位置付けた全33事業のうち30事業に着手し、事業着手率は90.9%となることから概ね順調に進捗・完了したといえる。

数値目標は未達成で基本計画期間満了となったが、上記「1」に記載したとおり、活性化実施事業第1弾となる「フラノマルシェ」開業に伴い、中心市街地への観光客の入込が約795千人と飛躍的に上昇し、大きな事業成果があったものとする。

また、市民アンケート結果から活性化事業の認知度として「フラノマルシェ」を「知っている」と回答した市民が90%にものぼることから、市民の潜在的意識の中にも活性化事業としての取り組みが認知・定着していることがうかがえる。

こうした取り組みが一定の評価を受け、計画期間中は中心市街地の商業地価格の上昇が見られなかったが(上昇率±0%が最大であった)今年度の「フラノマルシェ」周辺の路線価格が3.3%上昇し、現在、活性化事業第2弾として事業着手している東4条街区地区市街地再開発事業地区内においても、基準地価が1.8%の上昇が見られたことから、計画期間を本年10月まで最大限延長し継続した活性化に向けた取り組みを続けた結果、最終年度において事業効果の一環として捉えている。

## 3. 活性化が図られた要因(富良野市としての見解)

大きな要因として、増資を図った「ふらのまちづくり(株)」が本計画期間で示されたハード事業の実施主体、公益性を併せ持ったディベロッパーとして各事業を牽引し、基本計画を主導・実践する役割を明確に位置付けされた点にある。「フラノマルシェ」の成功により、まちづくり会社自身の財務基盤を強化し、自主独立した会社運営が可能となり、次の事業展開に進むことが出来るという好循環を生み出していった。

また、富良野商工会議所においてもソフト事業の実施主体として、「どんとまとめて!」まちなか活性化事業をはじめとする各種ソフト事業を展開し、その中でポイントカードの一元化やまちの話題お届け事業として情報の一元化を図るなど、ハード事業と密接に結びつけ市民の使い勝

手の良さを追求し、加えて小売商業対策事業で有期限の「ふらの市内共通商品券」を発行し、毎年継続して市内での消費喚起を行ってきたこともハードとソフト事業の相乗効果を最大限引き出すことに成功したと高く評価できる。

市としても、「フラノマルシェ」の直接的な建設費、いわゆる初期費用を支援するのではなく、底地の賃貸料(「フラノマルシェ」に係る建物はまちづくり株の所有、土地部分は市所有となる。)を支援することにより、民間の継続的な費用に対する支援をすることとなり、官民協働のまちづくりスタイルが確立していった。このように、ふらのまちづくり会社、いわゆるTMOに補助金などの直接的な支援をするのではなく、間接的な支援を続けることで民間の独立採算を促し、中長期的視点で民間の発展成長に主眼を置いてきたことが、ここにきて結実してきていることも主要因の一つである。

こうした、官と民によるそれぞれの役割分担による最大限の事業効果を追求した結果、本市オリジナルの市・会議所・まちづくり会社による独特なコラボレーションが形成されたことが最大の要因であると分析出来る。

#### 4. 中心市街地活性化基本計画の取組に対する中心市街地活性化協議会の意見

##### 【活性化状況】

かなり活性化が図られた

若干の活性化が図られた

活性化に至らなかった(計画策定時と変化なし)

活性化に至らなかった(計画策定時より悪化)

##### 【詳細を記載】

富良野市中心市街地活性化協議会としては、基本計画における検証・評価を行った結果、90%以上の高い事業着手率からも概ね順調に事業実施されてきたと評価できる。

「フラノマルシェ」のオープン以降、今年度で5年目を迎え累計で3,000千人を超えたことは、中心市街地の活性化に大きく寄与し、経済効果として建設投資効果が5.9億円、消費効果で9.7億円まで波及していることが推計されている。基本計画のコンセプトである「ルーバン・フラノ構想」に基づく“まちの縁側”として十分な集客機能と効果をあげている。

しかし、基本計画では1.「フラノマルシェ」2.「東4条街区市街地再開発事業」3.「サンライズパーク構想」の3つの核事業を掲げており、これら事業の完了をもって歩行者通行量まちなか居住の数値目標達成を目指していたので、志半ばという感が否めないのも事実である。ただ、「フラノマルシェ」周辺では、集客によるにじみだし効果として回遊歩行者通行量の増加も確認されており、この部分を歩行者通行量データに反映できていないことが、目標数値に満たない原因の一つとなっている。

今後は、集客から如何にまちなか回遊に結び付け、歩行者通行量の増加を図り、賑わい創出へと繋げていくかが次期計画では試されることとなる。

## 5. 市民意識の変化

### 【活性化状況】

かなり活性化が図られた

若干の活性化が図られた

活性化に至らなかった（計画策定時と変化なし）

活性化に至らなかった（計画策定時より悪化）

### 【詳細を記載】

富良野市では「地域の魅力ある産業を活かしたまちづくり」を目標に、商工業の振興とまちなかに賑わいを目指したまちづくりを行うために、「富良野市中心市街地活性化基本計画」を策定し、国の認可を平成20年11月に受けた上で、中心市街地である77haの活性化に向けた各種活性化事業を実施してきた。

このアンケート調査は、基本計画期間（第2回変更前）が平成26年3月までとなっていたことから、中心市街地に対する市民の利用度や評価、活性化事業に関する市民の認知度、市民が今後、中心市街地に求めるものなどを把握することを目的としたものである。

#### 富良野市民ニーズ調査

調査日（期間）： アンケート発送日 平成26年1月31日（金）

アンケート締切日 平成26年2月28日（金）

調査方法：平成26年1月1日現在の、住民基本台帳に登録されている18歳以上の市民を無作為に約千人を抽出しアンケートを郵送

回収率等：	送付総数	1,008通
	あて先不明等返却	10通
	有効送付数	998通
	回収数	431通
	回収率	43.19%

市と民間が基本計画に基づき実施してきた施策及び事業が、市民感覚ではどのように感じられているのかを定量的に把握し、今後の方向性を検討・模索する上でも非常に有益な調査であった。

各種設問の中で、市民の肌感覚として「賑わってきている」「少し賑わってきている」と回答した市民は約43%であり、市民の約半数が効果を認め、活性化の取り組み（施策）について、「必要」「少しは必要」と81%の市民が回答している。また、「遅い」「もう少し早い進捗が必要」との回答が32%とありつつも、反面「大きな取り組みなので時間がかかるのはやむをえない」との回答が38%にも上り、継続した新計画策定に対し「必要である」「少しは必要である」との回答が64%となっている。

市民は基本計画をベースに、引き続き立ち止まることのない事業の継続性を求めていると推測出来るアンケート結果となっている。

調査設問事項

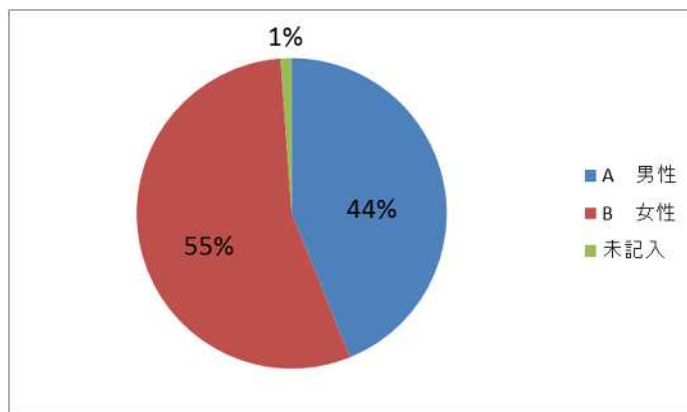
性別、年齢に関する質問

性別           A 男性                   B 女性  
 年齢           A 10歳代           B 20歳代           C 30歳代           D 40歳代  
                   E 50歳代           F 60歳代           G 70歳代以上

【アンケート結果】

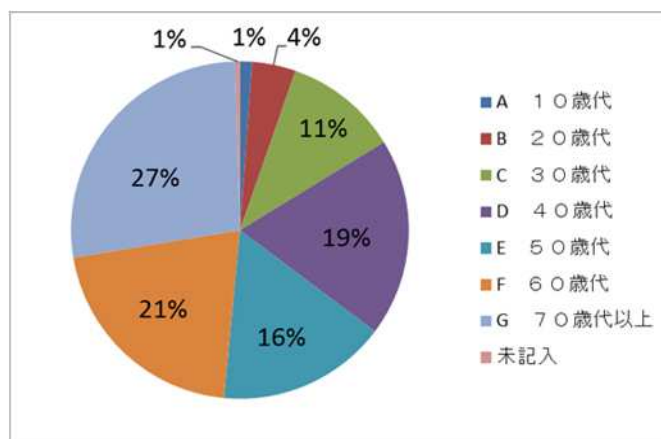
性別

A 男性	189	44%
B 女性	237	55%
未記入	5	1%
計	431	100%



年齢

A 10歳代	5	1%
B 20歳代	18	4%
C 30歳代	47	11%
D 40歳代	82	19%
E 50歳代	70	16%
F 60歳代	90	21%
G 70歳代以上	117	27%
未記入	2	1%
計	431	100%



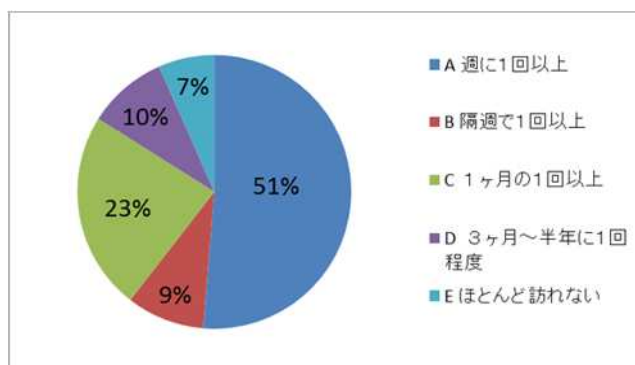
(1) 中心市街地の利用状況

1) 中心市街地内商店街へ訪れる頻度 (どれか一つを選択)

A 週に1回以上           B 隔週で1回以上           C 1ヶ月の1回以上  
 D 3ヶ月～半年に1回程度  
 E ほとんど訪れない

【アンケート結果】

A 週に1回以上	217	51%
B 隔週で1回以上	39	9%
C 1ヶ月の1回以上	99	23%
D 3ヶ月～半年に1回程度	40	10%
E ほとんど訪れない	28	7%

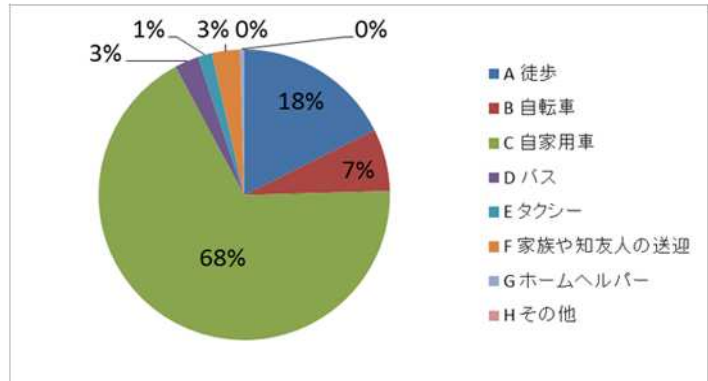


2) 中心市街地内商店街へ訪れる手段(どれか一つを選択)

- A 徒歩 B 自転車 C 自家用車 D バス E タクシー  
 F 家族や知友人の送迎 G ホームヘルパー  
 H その他

【アンケート結果】

A 徒歩	79	18%
B 自転車	31	7%
C 自家用車	303	68%
D バス	12	3%
E タクシー	7	1%
F 家族や知友人の送迎	14	3%
G ホームヘルパー	2	0%
H その他	0	0%

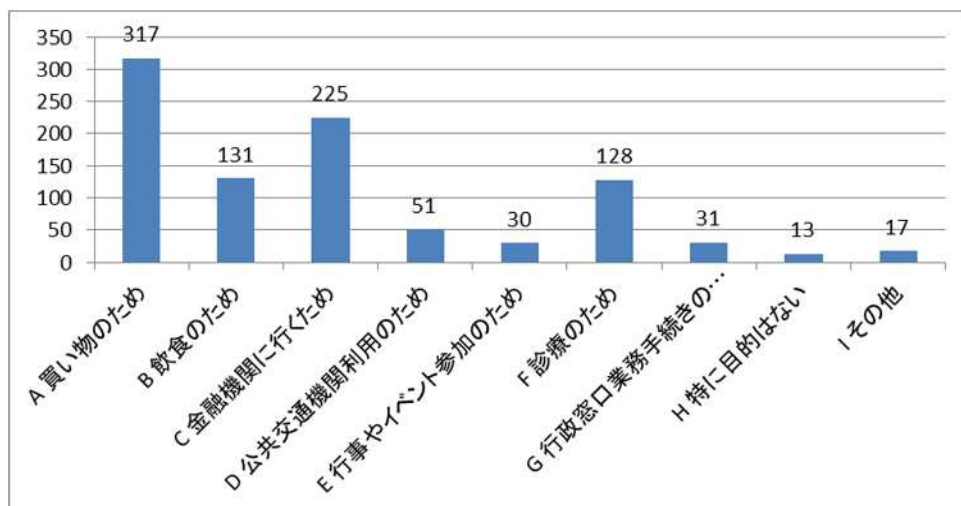


3) 中心市街地内商店街へ訪れる目的(複数選択可)

- A 買い物のため B 飲食のため C 金融機関に行くため  
 D JR、都市間高速バスなど交通機関利用のため  
 E 行事やイベント参加のため F 診療のため G 行政の窓口業務手続きのため  
 H 特に目的はない I その他

【アンケート結果】

A 買い物のため	317
B 飲食のため	131
C 金融機関に行くため	225
D 公共交通機関利用のため	51
E 行事やイベント参加のため	30
F 診療のため	128
G 行政窓口業務手続きのため	31
H 特に目的はない	13
I その他	17

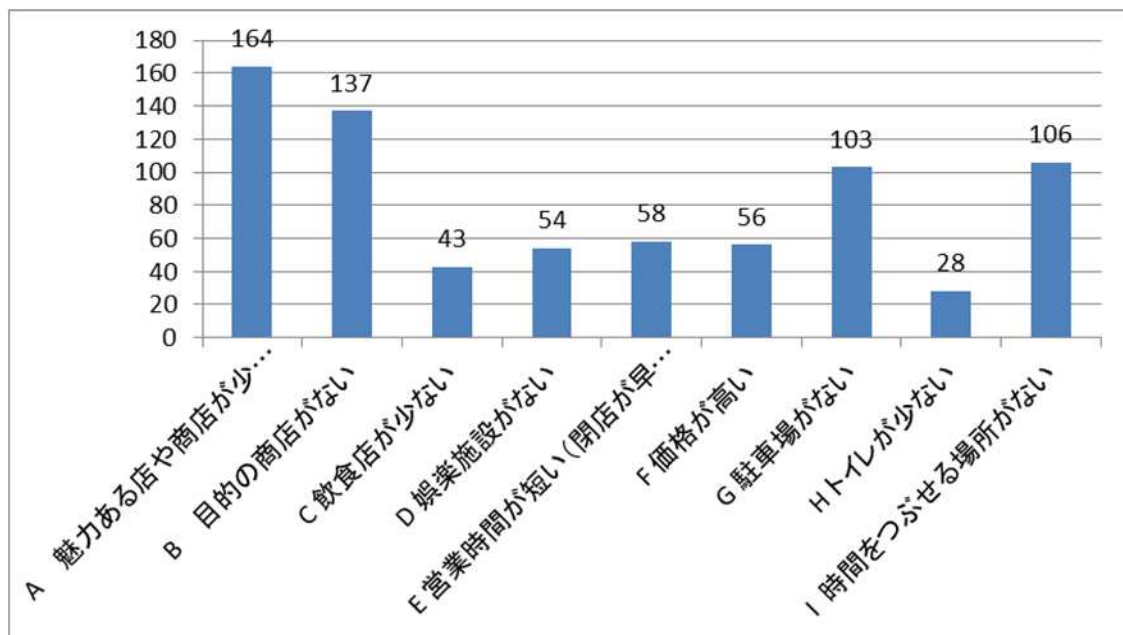


4) 中心市街地内商店街にあまり訪れない理由(複数選択可)

- A 魅力ある店や商店が少ない
- B 目的の商店がない
- C 飲食店が少ない
- D 娯楽施設がない
- E 営業時間が短い(閉店が早い)
- F 価格が高い
- G 駐車場がない
- H トイレが少ない
- I 待ち合わせや自由に時間をつぶせる場所がない

【アンケート結果】

A 魅力ある店や商店が少ない	164
B 目的の商店がない	137
C 飲食店が少ない	43
D 娯楽施設がない	54
E 営業時間が短い(閉店が早い)	58
F 価格が高い	56
G 駐車場がない	103
H トイレが少ない	28
I 時間をつぶせる場所がない	106



(2) これまで行ってきた活性化事業(1期)の認知度

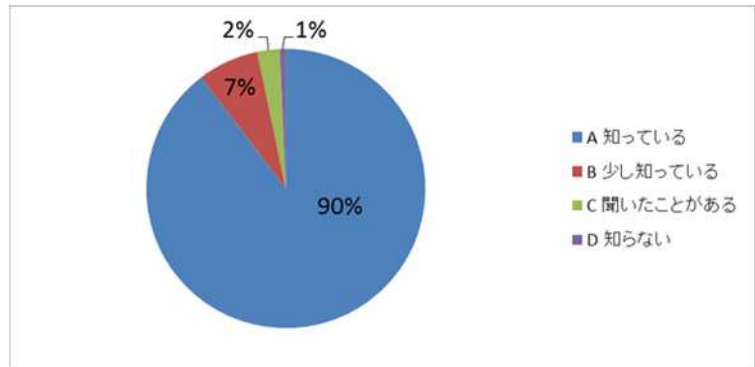
1) 1期計画による実施事業の認知度(どれか一つを選択)

『フラノマルシェ』

- A 知っている    B 少し知っている    C 聞いたことがある  
D 知らない

【アンケート結果】

A 知っている	380	90%
B 少し知っている	30	7%
C 聞いたことがある	11	2%
D 知らない	3	1%

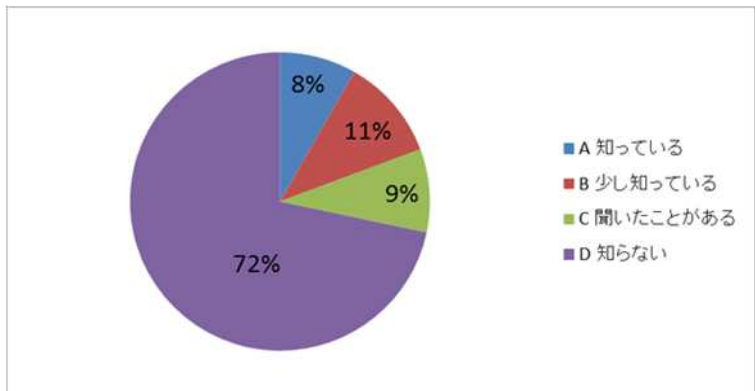


『ギャラリーロード』

- A 知っている    B 少し知っている    C 聞いたことがある  
D 知らない

【アンケート結果】

A 知っている	33	8%
B 少し知っている	44	11%
C 聞いたことがある	36	9%
D 知らない	286	72%

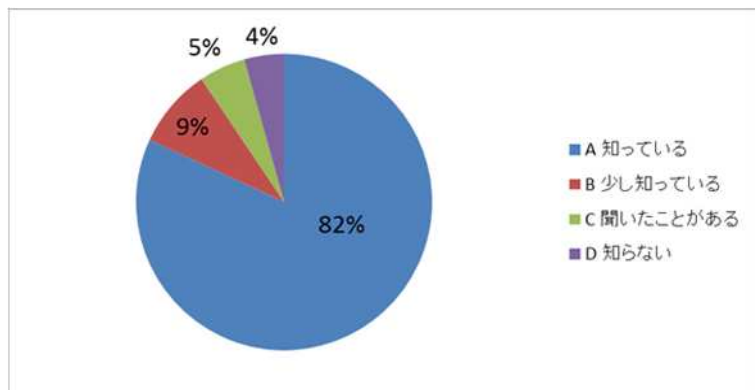


『ポイントカード事業』

- A 知っている    B 少し知っている    C 聞いたことがある  
D 知らない

【アンケート結果】

A 知っている	339	82%
B 少し知っている	36	9%
C 聞いたことがある	21	5%
D 知らない	18	4%





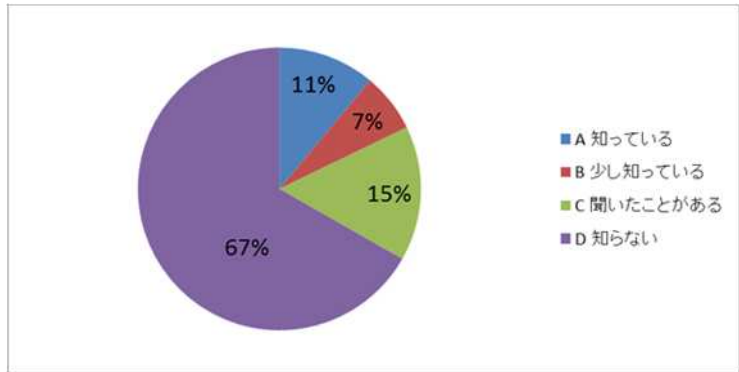
2) 1期計画で実施中、未実施事業の認知度(どれか一つを選択)

『ネーブルタウン』

・知っている ・少し知っている ・聞いたことがある ・知らない

【アンケート結果】

A 知っている	46	11%
B 少し知っている	28	7%
C 聞いたことがある	64	15%
D 知らない	277	67%

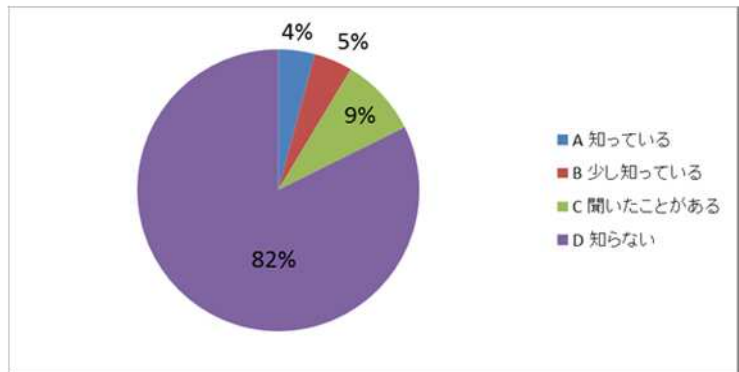


『サンライズパーク』

・知っている ・少し知っている ・聞いたことがある ・知らない

【アンケート結果】

A 知っている	17	4%
B 少し知っている	18	5%
C 聞いたことがある	37	9%
D 知らない	335	82%



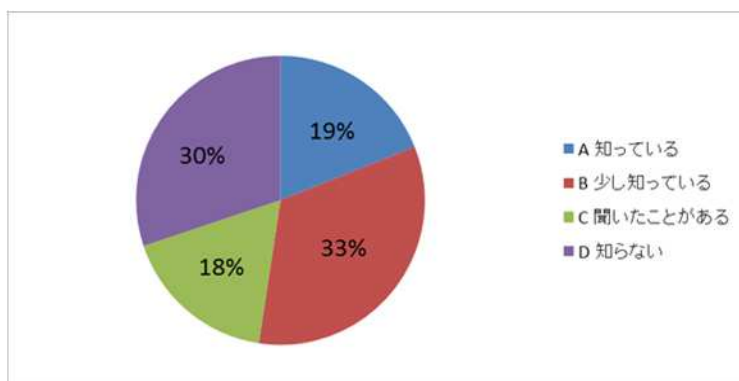
3) 中心市街地の各種活性化事業への取り組みについて(どれか一つを選択)

具体例： フラノマルシェなど施設整備事業 5事業  
 道路整備事業 2事業  
 中心市街地のにぎわい創出事業などソフト事業 25事業

A 知っている B 少し知っている C 聞いたことがある D 知らない

【アンケート結果】

A 知っている	75	19%
B 少し知っている	132	33%
C 聞いたことがある	69	18%
D 知らない	119	30%

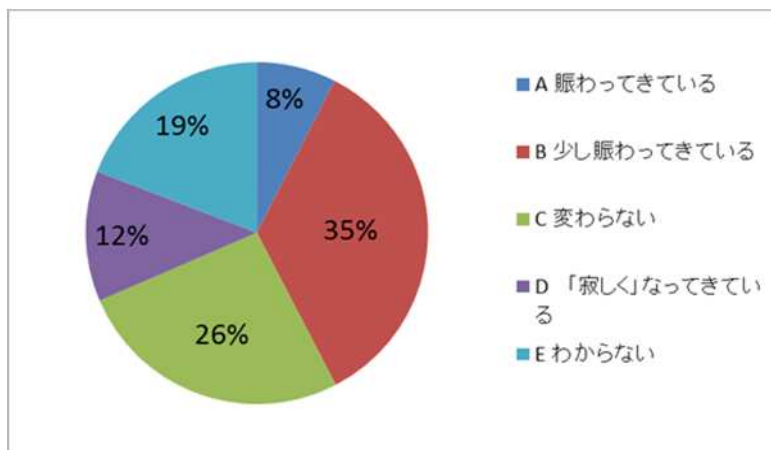


4) 中心市街地の各種活性化事業への取り組み結果、中心市街地内は(どれか一つを選択)

- A 賑わってきている B 少し賑わってきている C 変わらない  
D 「寂しく」なってきた E わからない

【アンケート結果】

A 賑わってきている	31	8%
B 少し賑わってきている	144	35%
C 変わらない	108	26%
D 「寂しく」なってきた	51	12%
E わからない	79	19%

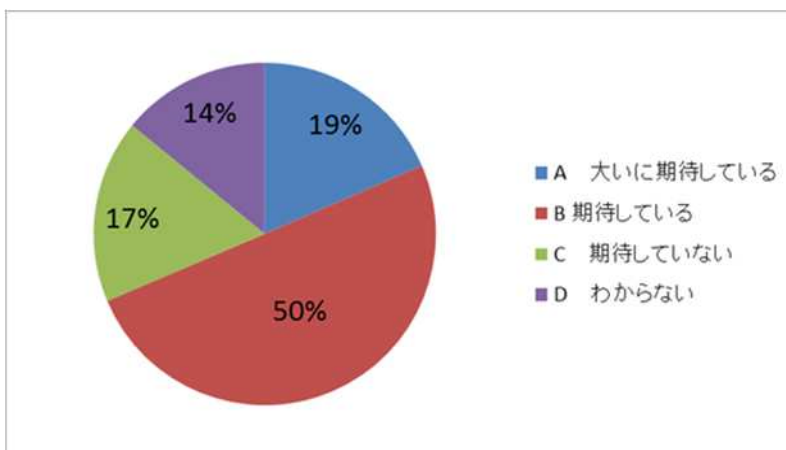


5) 本市の行政と民間による中心街活性事業の取り組みについては全国的にも注目されているが(どれか一つを選択)

- A 大いに期待している B 期待している C 期待していない  
D わからない

【アンケート結果】

A 大いに期待している	76	19%
B 期待している	206	50%
C 期待していない	71	17%
D わからない	58	14%

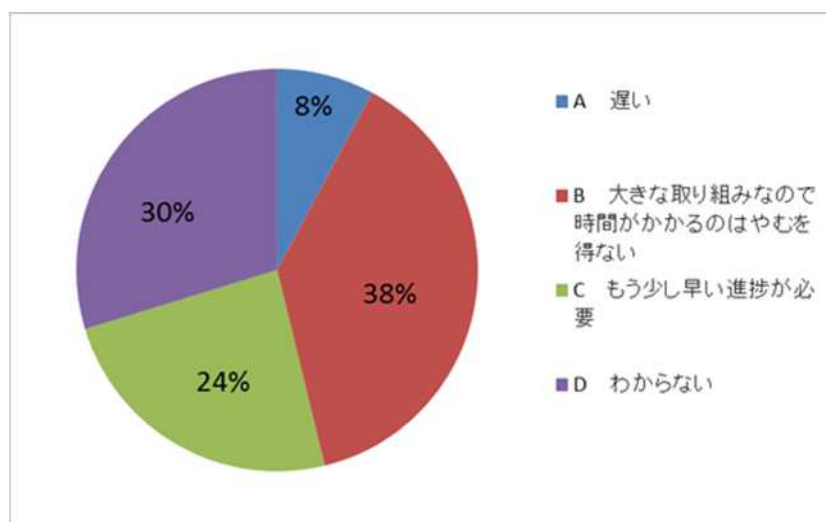


6) 中心市街地の各種活性化事業への取り組みの進捗状況について(どれか一つを選択)

- A 遅い                                      B 大きな取り組みなので時間がかかるのはやむを得ない  
 C もう少し早い進捗が必要                                      D わからない

【アンケート結果】

A 遅い	32	8%
B 大きな取り組みなので時間がかかるのはやむを得ない	156	38%
C もう少し早い進捗が必要	98	24%
D わからない	121	30%

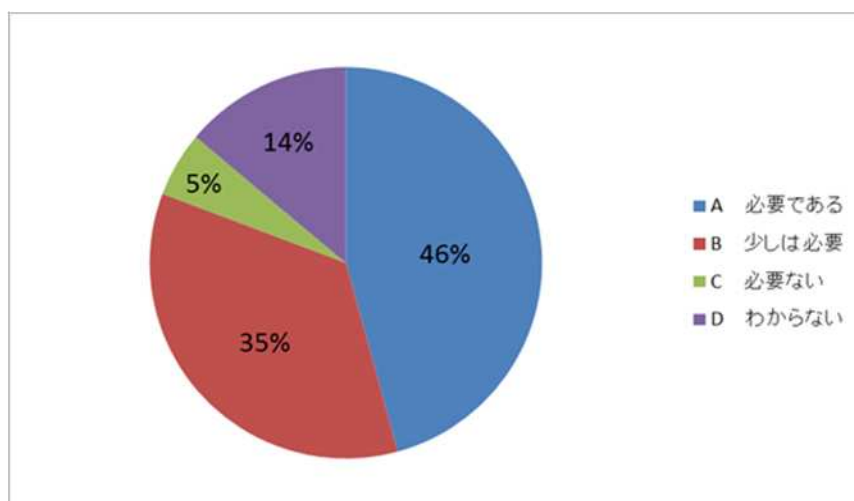


7) 中心市街地活性化への施策は必要か(どれか一つを選択)

- A 必要である    B 少しは必要    C 必要ない    D わからない

【アンケート結果】

A 必要である	188	46%
B 少しは必要	144	35%
C 必要ない	22	5%
D わからない	57	14%

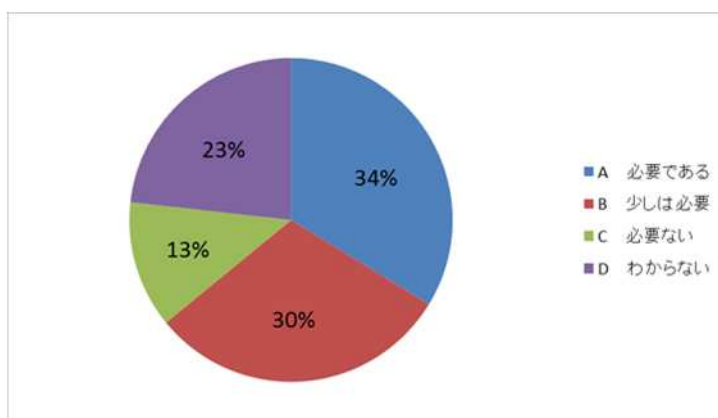


8)本市の(1期計画)各種活性化事業が平成26年に計画期間終了となるが継続して2期計画を策定し取り組むことが必要か(どれか一つを選択)

A 必要である B 少しは必要 C 必要ない D わからない

【アンケート結果】

A 必要である	138	34%
B 少しは必要	124	30%
C 必要ない	52	13%
D わからない	95	23%

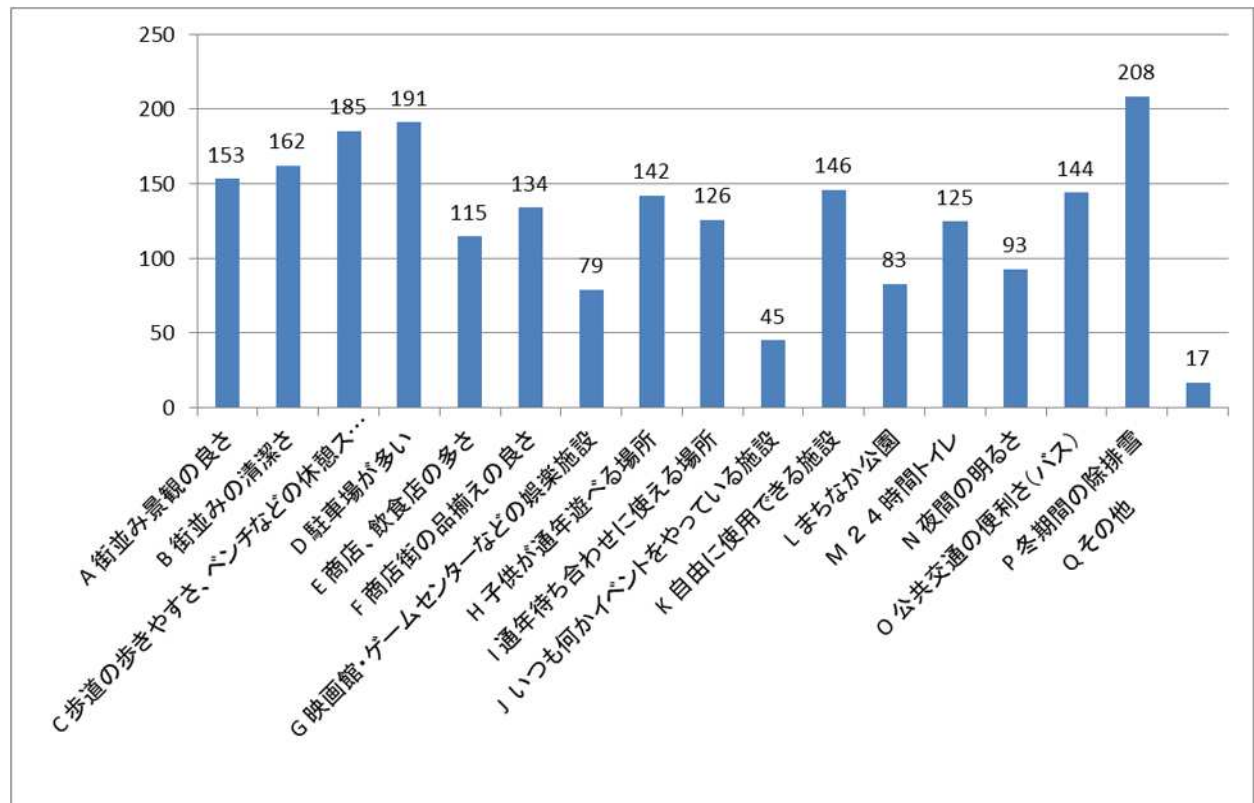


(3) 中心市街地の活性化のために必要と思われること

1) 「訪れたい」「長く時間を過ごしたい」と思う場所にするために必要なこと(複数選択可)

【アンケート結果】

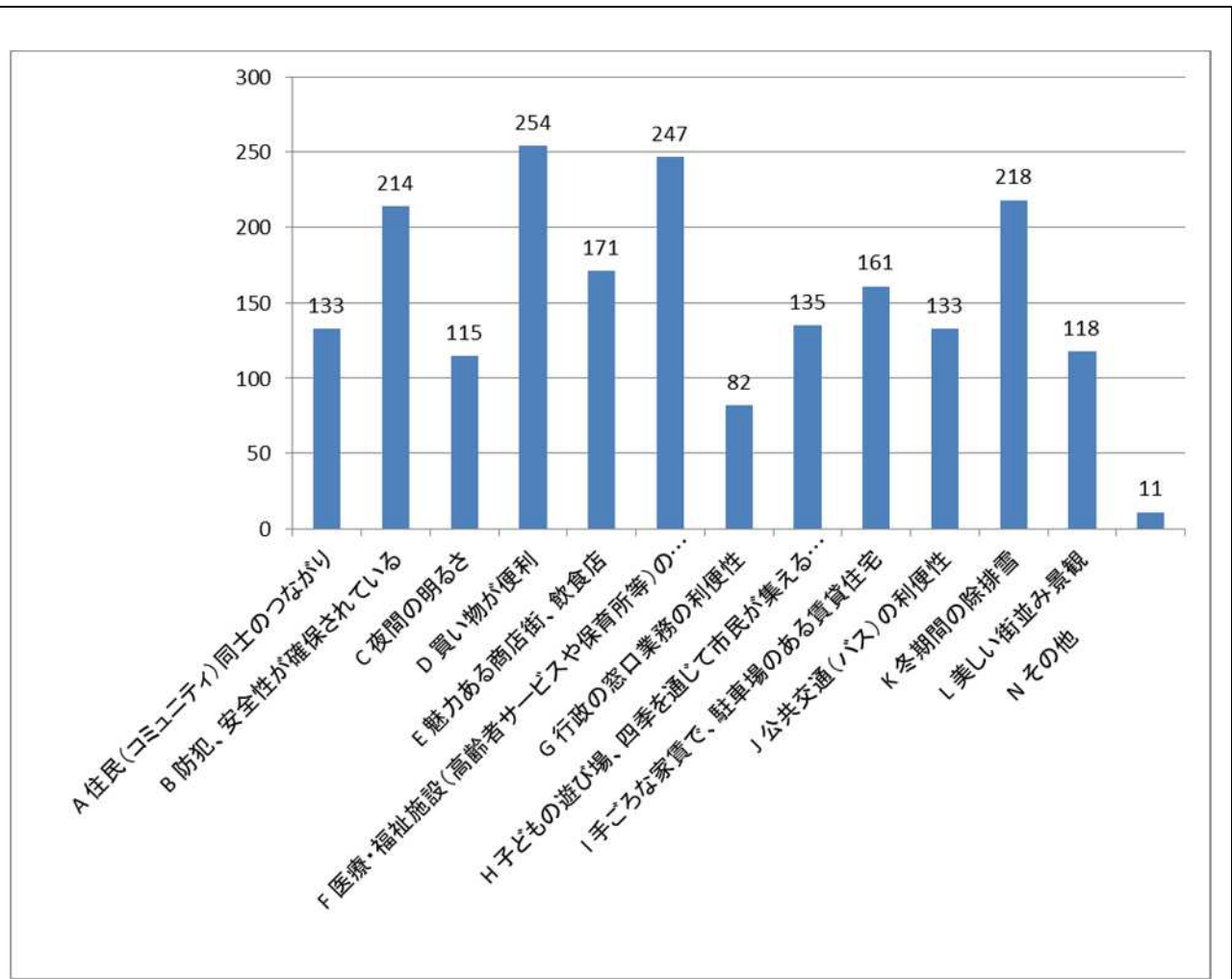
A 街並み景観の良さ	153
B 街並みの清潔さ	162
C 歩道の歩きやすさ、ベンチなどの休憩スペース	185
D 駐車場が多い	191
E 商店、飲食店の多さ	115
F 商店街の品揃えの良さ	134
G 映画館・ゲームセンターなどの娯楽施設	79
H 子供が通年遊べる場所	142
I 通年待ち合わせに使える場所	126
J いつも何かイベントをやっている施設	45
K 自由に利用できる施設	146
L まちなか公園	83
M 24時間トイレ	125
N 夜間の明るさ	93
O 公共交通の便利さ(バス)	144
P 冬期間の除排雪	208
Q その他	17



2) 中心市街地に「住みたい」「長く住み続けたい」と思う場所にするために必要なこと  
(複数選択可)

【アンケート結果】

A 住民(コミュニティ)同士のつながり	133
B 防犯、安全性が確保されている	214
C 夜間の明るさ	115
D 買い物が便利	254
E 魅力ある商店街、飲食店	171
F 医療・福祉施設(高齢者サービスや保育所等)の充実	247
G 行政の窓口業務の利便性	82
H 子どもの遊び場、四季を通じて市民が集えるパブリックスペース	135
I 手ごろな家賃で、駐車場のある賃貸住宅	161
J 公共交通(バス)の利便性	133
K 冬期間の除排雪	218
L 美しい街並み景観	118
N その他	11



## 6. 今後の取組

今回の基本計画では実施中事業を含め90%以上の事業実施率がありながら、2つの数値目標である「歩行者通行量」と「居住人口」は、地域固有の現象や社会現象の見通しの甘さから目標達成には至らなかった。この反省点を踏まえ、平成26年10月17日に新たに富良野市中心市街地活性化基本計画の認定を受けたことから、新計画に掲げた各事業への取り組みそのものが今後の取り組みと位置付ける。

以下、その取り組みは、

市民が中心市街地の魅力を感じ、溢れる賑わいを実感することを目指し取り組んでいく。  
 まちなか居住人口の増加に向けては、遅延している前計画、富良野市東4条街区地区市街地再開発事業(ネーブルタウン)を継続実施するとともに、新たに、富良野市東5条3丁目街区地区市街地再開発事業、サービス付き高齢者向け住宅建設、子育て世代を対象としたまちなか共同住宅建設を事業追加し、活性化事業による中心市街地への居住人口の増加を目指し取り組んでいく。

中心市街地商店街全体の魅力を高めるために、空き店舗の解消と新規出店舗の誘致を図る。商店街回遊によるにぎわいを創出するためにも、富良野市中小企業振興総合補助金の活用を促進し空き店舗の解消を図ると共に、前計画で着手した富良野市東4条街区地区市街地再開発事業(ネーブルタウン)を継続実施し、新規出店舗数の誘致に向けて取り組んでいく。  
 遅延している前計画の「サンライズ・パーク(仮称)事業」を引き続き実施し、新計画内で

の完成を目指す。また、富良野市東4条街区地区市街地再開発事業（ネーブルタウン）の全天候型多目的空間（アトリウム）を活用した効果的なイベント事業を実施する。さらには「どんとまとめて！」まちなか活性化事業であるギャラリーロード事業では、市民、特に親子向けの展示ブースを設置して、小、中学校など教育機関の協力を得ながら、テーマ、開催時期などを再検討の上実施していく。また、商店街の魅力あるイベント情報の発信によって中心市街地商店街の歩行者通行量を増やしていく。

以上の4点を今後5年間で強力に推進し、現在の中心市街地以上の賑わいを再興していく。

**(参考)**

**各目標の達成状況**

目標	目標指標	基準値	目標値	最新値		達成状況
				(数値)	(年月)	
にぎわいと商業の活性化	歩行者通行量	3,094人 (H20)	3,700人 (H26)	3,082人	H26.10	C
まちなか居住の推進	居住人口	2,741人 (H19)	2,900人 (H26)	2,589人	H26.3 「H27年3月 31日確定」	C

注) 達成状況欄 (注: 小文字の a、b、c は下線を引いて下さい)

- A (計画した事業は概ね予定どおり進捗・完了。さらに、最新の実績でも目標値を超えることができた。)
- a (計画した事業は予定どおり進捗・完了しなかった。一方、最新の実績では目標値を超えることができた。)
- B (計画した事業は概ね予定どおり進捗・完了。一方、最新の実績では基準値を超えることができたが、目標値には及ばず。)
- b (計画した事業は予定どおり進捗・完了しなかった。また、最新の実績では基準値を超えることができたが、目標値には及ばず。)
- C (計画した事業は概ね予定どおり進捗・完了。一方、最新の実績では目標値および基準値にも及ばなかった。)
- c (計画した事業は予定どおり進捗・完了しなかった。また、最新の実績では目標値および基準値にも及ばなかった。)

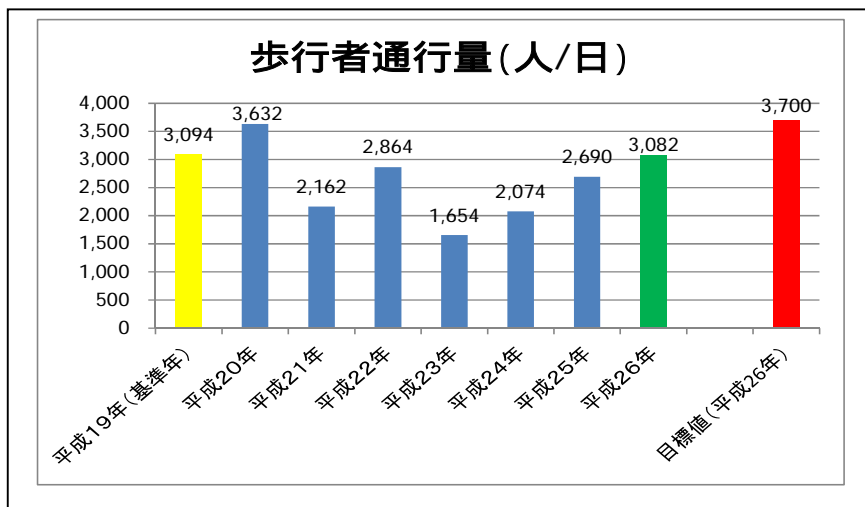


個別目標

目標「にぎわいと商業の活性化」

「歩行者通行量」 目標設定の考え方基本計画 P62～P68 参照

1. 調査結果の推移



年	(単位:人)
H19	3,094 (基準年値)
H20	3,632
H21	2,162
H22	2,864
H23	1,654
H24	2,074
H25	2,690
H26	3,082
H26	3,700 (目標)

調査方法；歩行者通行量調査(中心市街地商店街4箇所)

調査月；平成26年10月24日(金曜日)午前10時～午後8時

調査主体；富良野商工会議所

調査対象；通行歩行者及び通行車輛

2. 目標達成に寄与する主要事業の計画終了後の状況(事業効果)

・「フラノマルシェ(仮称)」開発事業(ふらのまちづくり株)

支援措置名及び支援期間	戦略的中心市街地商業等活性化支援事業費補助金 平成21年度～平成22年度
事業開始・完了時期	平成21年度[済]
事業概要	複合集客施設と大型駐車場と富良野らしい景観を兼ね備えた「飲食モール」の創出
目標値・最新値	目標値:354人(平日1日当たり) 最新値:3,105人(平日1日当たり)
達成状況	達成
達成した(出来なかった)理由	富良野の食材を活かした「食文化の発信基地」として、当初の想定どおりまちの玄関口・滞留拠点として観光客の取り込みに成功し、リピーターに高く評価・支持されている。また、民間主導による「まちづくり」は、多くのメディアからの取材を受け、大きな商業効果をもたらすこととなった。
計画終了後の状況(事業効果)	昨年度は、約80万人が来場する集客施設として、近接する商業地の地価上昇をもたらす。また、施設への来場客が、近接商店街へ回遊しているいわゆる「にじみだし効果」が確認されている。 また、15億円の経済効果が報告されており、地域経済に大きく寄与している。
「フラノマルシ	引き続き、富良野の中心市街地活性化及びまちづくりのシンボリックな施設



エ」開発事業の今後について	として、商店街との連携を図りながらまちなか回遊の起点施設として賑わい創出のコア的役割を担ってゆく。
---------------	---

・東4条街区市街地再開発事業（ふらのまちづくり株）

支援措置名及び支援期間	社会資本整備総合交付金(市街地再開発事業等) 平成21年度～平成26年度
事業開始・完了時期	平成21年度～平成26年度【実施中】
事業概要	「フラノマルシェ」に隣接する、北側約1.7haの既成市街地に市街地再開発事業を導入し、日常生活に必要な様々な都市機能と居住空間をまちなかに集積する。 機能集積：複合商業施設、サービス付き高齢者向け住宅、認可保育所、内科クリニック、居住マンション、個人店舗、アトリウム
目標値・最新値	目標値：490人 最新値：-人
達成状況	未達成
達成した（出来なかった）理由	施設機能の見直しを図ったところ、都市計画変更等の発生、その法的事務手続きに時間を要し、工事着手が大幅に遅延し、現在、工事中である。今年度末に事業完了予定。
計画終了後の状況（事業効果）	-
東4条街区市街地再開発事業の今後について	複合商業施設、認可保育所、アトリウムは来年6月の供用開始を目指し、現在建設工事がすすめられている。 「フラノマルシェ」の話題性との相乗効果により、新計画の数値目標に大きく寄与するものと期待している。

・「サンライズ・パーク（仮称）」開発事業（富良野市・ふらのまちづくり株）

支援措置名及び支援期間	-
事業開始・完了時期	平成21年度～平成31年度【実施中】
事業概要	ほぼ、市内の中心に位置する「くにい」店舗跡地周辺に大型バスも駐車可能な「まちなか駐車場」を配置して商店街への回遊を促進する。 また、市民がくつろげる魅力的空間としてポケットパーク機能も兼ね備えていく。
目標値・最新値	目標値：27人 最新値：-人
達成状況	未達成
達成した（出来なかった）理由	事業の具体的方向性や手法が現在、検討段階であるため本格的な着手着工に至っていないことによる。
計画終了後の状況	-

況（事業効果）	
「サンライズ・パーク（仮称）」開発事業の今後について	現在、駐車場の他に付加価値の高い都市機能等の導入の可能含め、上級官庁と事業組立協議中である。 平成27年度からの本格的事業着手を目指す。

### 3.今後について

今回の計画期間では、「フラノマルシェ」の年間80万人近くの集客によるしみ出し効果で周辺商店街の賑わいは創出しているが、残念ながら中心市街地全体までの波及までには至っていない。エリア全体の活性化のためには、「フラノマルシェ」からJR富良野駅までの直線距離約500mを、人が歩いて苦痛を感じない距離といわれる200m程度の中間的エリアに「溜まり」となる施設を配置することが必要で、その施設は市民、観光客共に利用できる「機能性と利便性に富む」施設でなければならず、中心市街地内に適度に配置された機能性と利便性に富む「溜まり」から全体への回遊へと結び付けることが必要と考えている。

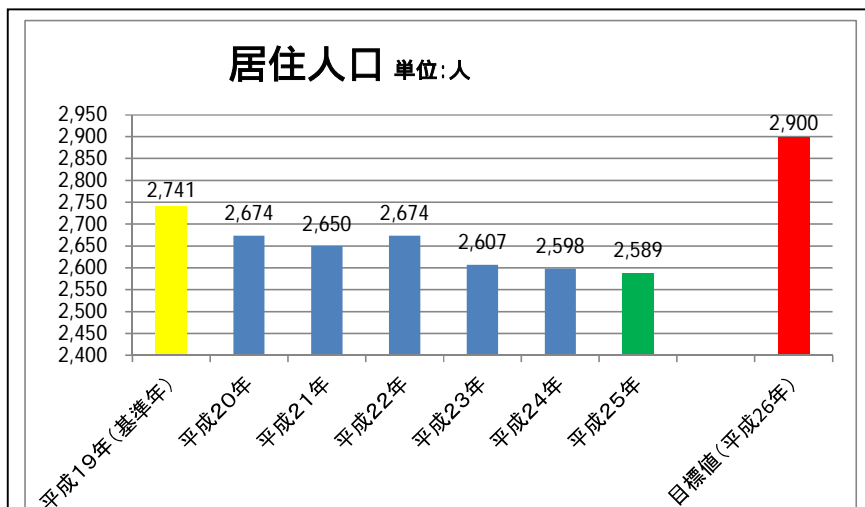
現在、着工中の活性化事業第2弾である東4条街区市街地再開発事業には、まちなかに市民が求める商業店舗の誘致と、新たな観光資源を活用した店舗誘致、そして、冬期間、自宅に引きこもりがちな市民に、通年を通し気軽に利用され、各種イベント開催により自由に溜まれる空間「全天候型多目的空間（アトリウム）」を配置し、周辺商店街のにぎわいを創出する。さらには、市民、観光客に対してまちなか駐車場「サンライズパーク（仮称）」整備事業により、日常、イベント開催時などでまちなかでの駐車場を提供し、周辺商店街へ歩いて回遊する歩行者の増加を図っていく。

個別目標

目標「まちなか居住の推進」

「居住人口」 目標設定の考え方基本計画 P69～P71 参照

1. 調査結果の推移



年	(単位:人)
H19	2,741 (基準年値)
H20	2,674
H21	2,650
H22	2,674
H23	2,607
H24	2,598
H25	2,589
H26	2,900 (目標)

調査方法；住民基本台帳

調査月；平成26年3月31日

調査主体；富良野市

調査対象；平成26年3月31日現在の住民基本台帳による中心市街地（77ha）の居住人口

2. 目標達成に寄与する主要事業の計画終了後の状況（事業効果）

・東4条街区市街地再開発事業（ふらのまちづくり株）

支援措置名及び 支援期間	社会資本整備総合交付金(市街地再開発事業等) 平成21年度～平成26年度
事業開始・完了 時期	平成21年度～平成26年度【実施中】
事業概要	「フラノマルシェ」に隣接する、北側約1.7haの既成市街地に市街地再開発事業を導入し、日常生活に必要な様々な都市機能と居住空間をまちなかに集積する。 機能集積：複合商業施設、サービス付き高齢者向け住宅、認可保育所、内科クリニック、居住マンション、個人店舗、アトリウム
目標値・最新値	目標値：82人 最新値：-人
達成状況	未達成
達成した（出来 なかった）理由	施設機能の見直しを図ったところ、都市計画変更等の発生、その法的事務手続きに時間を要し、工事着手が大幅に遅延し、現在、工事中である。今年度末に事業完了予定。
計画終了後の状 況（事業効果）	-
東4条街区市街 地再開発事業の	平成27年6月から住居棟の供用開始となる予定である。既に個人の権利変換住宅は、供用開始が成されており、サービス付き高齢者向け住宅は全

今後について	36室あり、居住棟は、2LDK及び3LDKで構成される全18戸の高層集合住宅が配置されることから、次年度以降は、数値目標は十分にクリアされていくと推測できる。
--------	---

・まちなか居住推進会議の設置（協議体）

支援措置名及び支援期間	-
事業開始・完了時期	平成20年度～平成26年度【実施中】
事業概要	「まちなか居住推進会議」を設置し、フォーラム開催や集中相談窓口を開設することにより、建設未利用地の有効活用の提案やまちなか居住の利便性をPRしまちなか居住の推進を図る。
目標値・最新値	目標値:まちなか居住推進会議の設置 最新値:-
達成状況	達成
達成した（出来なかった）理由	富良野中心市街地活性化協議会運営委員会のまちなか居住専門部会を「まちなか居住推進会議」として発展（平成20年11月設置）させ、フォーラム開催や集中窓口の設置し、行政機関と連携・情報交換を図りながら現在もまちなか居住の推進に取り組んでいる。
計画終了後の状況（事業効果）	共同住宅建設の棟数は計画期間内で10棟建設の目標に対し、それを上回る11棟の建設が図られたことから、老朽建物の更新や空き地の利活用促進に寄与している。
まちなか居住推進会議の今後について	引き続き、フォーラム開催及び集中相談窓口を開設し、建設未利用地の有効活用の提案やまちなか居住の利便性を積極的にPRし、過去実績同等の共同住宅1棟建設推進目標を1棟4戸として、今後5年間で毎年1棟の共同住宅建設を想定し、中心市街地での共同住宅建設促進を図る。

### 3.今後について

今後の中心市街地の人口変動を推定すると、平成25年度基準値は1,093人で、平成31年度には1,016人と77人減少（7.0%減）していくと推定され、本市が抱える少子高齢化に置かれている社会現状を考えた場合、今後、このまま活性化事業の施策を講じなければ、刻々と減少することが予測される。

このような悪循環は、中心市街地の疲弊をより一層促進し、空洞化を招くことから、新基本計画に基づく都市機能充実強化や福祉・商業機能の充実施策などを総合的に実施することで居住環境の向上を図り、まちの魅力を高めることにより居住人口の増加を図っていかねばならない。

